

今週のひと

古くなり空き家として放置された京町家の再生事業を行うフラットエージェンシー（京都府京都市）。同社が次に企画するのは地域住民が集うサロン「TAMARIBA」だ。



フラットエージェンシー
（京都府京都市）
吉田 光一 社長（63）

地域のよろず屋を目指す！ コミュニティで交流広げる

プロフィール

昭和25年6月22日生まれ。神奈川県横浜市出身。趣味は旅行。

京町家再生をはじめたきっかけ

定期借家契約制度が施行された平成12年、同制度の広報活動に励んでいた吉田社長。「オーナーから空き家を預かりました。しかし、そのほとんどが戦前に竣工した家屋だったのです」と町家との出会いを振り返った。築80年など当たり前。特に賃料を決めずに入居を募り、テナント（美容室）が入ったという。「なんとその借り主が、入居した建物を再生したいがために自ら3000万円を負担しリフォームしてくれたのです」（吉田社長）。美容室の店主によると、以前払っていた賃料は50万円だったが、この空き家に申し込んだところ12万で契約ができたので、安くなった分をリフォーム代に充てたという。京都の景観と、昔ながらの木材・意匠のよさを維持しつつ新しい物件に生まれ変わった。「そのとき私は、京町家のすばらしさに気づきました」（吉田社長）

地域の「よろず屋」を目指す

「地域交流で高齢者とのコミュニケーションが増える中で感じたことがあります」（吉田社長）。それは、不動産業のあり方の変化だという。コミュニティを生む機会を提供するなら地域のことに詳しい不動産会社が有利で、地域の相談役としても活躍できる可能性が十分にあると考えたという。しかし、数年前に来店者を対象に実施したアンケート結果で悲しい思いをしたことがあるという。8割の男女が「不動産会社に入りづらい」と回答。負のイメージを払しょくするため、店づくりを変えていく必要性を考えた。そして今年11月20日、地域交流のサロン「TAMARIBA」を開設する。カフェや理容室、シニア向けのスポーツジムを併設し、さらに文化講座などを定期開催し地域貢献に努めている。よろず屋（住まいのよろず相談）としての不動産会社になるべく地域住民が利用しやすい環境を提供する。